

【資料1 4年度報告書】

令和4年度西脇市就学前教育・保育の質の向上推進委員会 報告書（案）

園名（西脇こども園）

	内容
<p>教育 ・ 保育内容</p>	<p>園として地域に貢献すべく、さまざまな取組が行われている点が評価できる。また、稲刈りや吊るし柿、キノコ栽培等、できるだけ豊かな体験ができるように工夫がされており、豊富な玩具や教材等も準備されている。</p> <p>乳児については、広い空間を利用しながら環境が整えられている。0歳児は感覚を刺激しながら落ち着いて遊べるような配慮がなされている。1・2歳児は、遊びのコーナーを意識した環境づくりや、園児のやりたい気持ちと、落ち着ける空間とを同時に提供したいという保育者の努力が見られる。広い保育室・空間の使い方については、時期によって園児の育ちの様子が違うことから、継続して工夫すべき余地があるが、遊びのバリエーションや、ダイナミックな動きを取り入れた活動等、園児が安心して興味を持続できるように、今後も努力していただきたい。</p> <p>3歳児は、環境の整え方によって遊びが発展する姿が見られ、後半に向けてさらに遊びが充実してきた。転がす遊びや、制作しながらなりきって遊ぶことが自然に楽しく行われていた。4歳児も、広めの空間をコーナーとして区切ることによって継続して遊べる環境が整えられており、園児が自ら創造性を発揮して遊ぶ姿が見られた。特にままごとコーナーや、自作のピタゴラ装置等で、興味に沿って集中して遊んでいた。5歳児については、自分たちでやりたいことを決めて取り組んだり、お互いの発表を聞いて認め合ったりという活動が増えてきた。これからも主体的に活動する場面がより一層増加するように期待したい。そのためには探求する活動や、お互いに話し合っ解決すること等に意識的に取り組めるようにすることが求められる。また、教材や教具等を精選し、園児自ら整理整頓できるような環境をつくることも、就学に向けて考えていっていただきたい。子どもたちが園での豊かな経験を実感し、心に留めて小学校に進学するようお願いしたい。</p>
<p>教育課程の編成</p>	<p>週月案・個別の指導計画（乳児）等書式の見直しや、未満児の個別計画、支援児の個別計画も検討している。市の共通カリキュラムを活用できていないので、今後活用していく。</p>

<p>安全管理 ・ 防災教育</p>	<p>安全点検表を各クラスに定期的にまわし、設備等の点検を行っている。結果の把握を職員に周知できていないことがあるので、危険個所をお互いが伝え合いながら、保育者間で共通認識をもてるよう徹底していく。</p>
<p>家庭 ・ 地域との連携</p>	<p>コロナ禍の中、行事のあり方を検討しながら、4年度は、年齢ごとの運動遊び参観や音楽会等、ほとんどの行事を行った。保護者が参加し、園での子どもの様子を見ることができる機会を作ることで、園児も保護者も満足感が得られるようにしている。また、日々の送迎時やネット配信等で園の様子を伝え、相互理解を図っている。</p>
<p>職員の 資質の向上</p>	<p>多くの職員が研修に参加できるような勤務体制を整えることで、研修参加者が増えている。今後は、園内研修や保育見せ合い等を主体的に行い、職員間で共有、振り返りをする時間がもてるように検討していく。</p>
<p>食育 ・ アレルギー対応</p>	<p>食物アレルギー疾患児には、担任・主幹保育者・管理栄養士・看護師等が保護者と面接を行い、共通理解を図っている。基本的に、全園児に対して、アレルギー除去食対応の給食を行っている。(牛乳と卵)また、食中毒発生時の対応についてマニュアルを作成している。</p>
<p>関係者評価の 取り組み</p>	<p>他者からの評価内容や意見に対して、キッズノートで保護者に知らせるとともに、職員間で情報共有をし、必要であれば改善し、園全体での意識改善に努めるようにした。</p>
<p>【各園の特色や今年度、園として頑張りたいところ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全職員の意識の統一。 保育や行事の振り返り、情報共有を密にした取組。 ○子ども主体の保育や遊びの環境を整え、発展させるために、保育環境についていろいろと試行錯誤し、現状に応じて考えていく。 <p>【委員コメント】</p> <p>子どもたちが健全に成長発達するために必要な環境は、十分に提供されている。また、園児が主体的に活動できるような環境づくりを目指して、保育者一人一人が少しずつ動き出しているのが感じられる。今後研修を増やす等をして、職員間の振り返りや情報共有等が進むことで、さらに保育の質が向上すると期待している。</p>	

園名（ 比延こども園 ）

	内容
<p>教育 ・ 保育内容</p>	<p>保育者集団の園児に対する思いが同じ方向を向いて、より働きやすい職場になるためにはどうすればよいのか話し合えることができる風土がある。また、様々なことにチャレンジしてみようという気持ち、保育者の団結力があるということが、本園の強みであり、非常にパワーのある職員集団だと感じた。</p> <p>保育室内では園児の発達の状況を捉えて、おもちゃも適切に準備されている。乳児は、生活と遊びのスペースがうまく区切られており、過ごしやすい保育室になっていた。0・1歳児は、日当たりのよい保育室を生かした環境、発達段階を理解した『押す・引っ張る』おもちゃ作り等、前期訪問での助言の検討・改善がなされ、工夫やアレンジが見られた。2歳児は活発な園児が多いが、助言内容を取り入れた視覚優位の園児の特徴を生かした支援の工夫がなされていた。また、保育者の穏やかなかわりにより、園児が安心して自己を発揮していたのが印象的だった。</p> <p>幼児は、地域とのつながりや自然とのかかわり、体験活動を中心に保育活動が進められている。4歳児は、保育環境の工夫が多く見られ、中でも机の上に置く座席表は、マグネットで取り外しができるようになっていた。給食や保育活動で机を使う時、席を固定すると自由度がなく、席を自由にすると保育者の意図した配慮ができにくい。この方法では、どちらにも対応でき、他園でも取り入れるといい環境だった。5歳児は、年間行事を園児と共有できるような掲示物の配慮がなされており、他には見られない力量を感じた。</p> <p>穏やかに保育しているクラス、保育者がリードしながら園児の意欲を引き出していくクラス等、保育者の持ち味を生かした保育がなされている。保育の中では、時に穏やかに、時に活発に、園児に寄り添った対応も必要になってくる。園児のもっている能力が最大限引き出されるような、個に応じた対応ができることを今後ますます期待する。</p>
<p>教育課程の編成</p>	<p>市のカリキュラムや本園の理念・方針・目標に基づき、本園の特色を活かした教育・保育を展開している。行事では、できるだけ体験活動や主体的な活動になるよう年齢に応じ、工夫しながら行っている。子ども達が主役になれるよう職員間で、アイデアを出し合い進めている。</p>

<p>安全管理 ・ 防災教育</p>	<p>年間計画に基づき、毎月、安全点検や避難訓練を実施している。地域連携型を進め、保護者参加型も検討していきたい。園としてバスの安全管理は徹底しているが、保護者への啓発も行っていく。（駐車場や乗降場所の安全等）</p>
<p>家庭 ・ 地域との連携</p>	<p>感染予防対策や観覧者の検討等、工夫した園行事を実施している。園だよりや行事のたより、ドキュメンテーションの掲示等、日頃から保護者への情報発信に努めるとともに、個別懇談等を計画的に実施し、きめ細やかな保護者支援に努める。</p>
<p>職員の 資質の向上</p>	<p>年間研修計画に基づき、職員が積極的に研修に参加できるようにしている。また、月1回は、研修報告の機会を作り、全職員で共有している。行事で研修の成果を発揮できる機会や、保育者一人一人の個性を生かし、良さや得意なことを発揮できるようにしている。</p>
<p>食育 ・ アレルギー対応</p>	<p>食物アレルギー疾患児に対する、給食やおやつ等の提供は、事故がないよう給食室と保育者が連携して、対応している。園で大切にしている『地域とのつながりと食育』を今後も進めていきたい。感染予防対策として、調理場や水周り等の衛生管理・自己管理の徹底を行っている。</p>
<p>関係者評価の 取り組み</p>	<p>行事毎に保護者への感想の集約を行い、評価結果を理事会・評議員会等に報告し、HPにも掲載した。評価をもとに、本年度の振り返りと次年度の取組を検討していく。</p>
<p>【各園の特色や今年度、園として頑張りたいところ】 ○地域と連携した様々な体験活動、地域の良さを生かした保育 ○年齢に応じた『自分の思いを伝え聞き合う』、『話し合い活動』の基本となる力の育成。 ○園小接続</p> <p>【委員コメント】 園長・主幹保育者を中心として、一人一人の保育者の意見を尊重しながら保育活動を行っている。経験年数が高く力量のある先生もおられるため、次への課題を発見する力もあり、日々の保育は忙しさを感じさせることなく、園児のために必要な努力は惜しまない姿勢が感じられた。 室内に飾られていたドキュメンテーションからは、地域との連携が密に図られ、園児が様々な体験活動に取り組んでいる様子がうかがえた。</p>	

園名（ どれみこども園 ）

	内容
<p>教育 ・ 保育内容</p>	<p>園長のリーダーシップのもと、これから一層保育の充実に努めたいという姿勢が見られ、さまざまなことに挑戦しようとする雰囲気を感じられた。</p> <p>乳児は、一人一人の園児に保育者が適切に対応し、遊びの環境を整え、興味に合わせて玩具を提供していた。また、園外に出ることも多くなり、自然物と触れ合う中で感性を育もうとされていた。今後は、発達に応じた玩具の提供や、園児自ら選択しながら遊びを主体的にできるために、より一層の工夫が望まれる。2歳児保育室では、園児のやりたい気持ちを大切にしながら、落ち着けるコーナー作りがなされており、遊びたくなるような環境が整えられていた。食事の際も積極的に食べる姿が見られ、手先の器用さも出てきている。やる気をもって進級できるように、これからも楽しい環境と活動を提供していただきたい。</p> <p>3歳児では、ダンゴムシをきっかけに制作や表現等がされていた。散歩に出かけたり、音楽に親しんだりする等、豊かな時間が過ごされている他、楽しかったことを話す時間を設ける等、言葉による表現にも力が入れられていた。4歳児は、虫や花に興味があることから、図鑑を調べたりする環境が整えられている。その中で、園児が困ったことをお互いに伝えたり、保育者に頼ることなく自分たちで解決に向かったりすることができるような、保育者の丁寧なかかわりや支援を今後も望む。5歳児では、自分たちでできることが増え、自立して生活できるようになっている。自分の考えを発表したり、話を伝えたりしている他、生き物の飼育や夏野菜の生長等にも興味があり、探求的な活動も行われている。またルールのある遊びでの問題解決や、他者の意見に気づくことを目指した活動が行われている。今後は、さらに園児が自立して話し合いを進めていけるよう、ペア活動を工夫したり、主導権を保育者から子どもへ少しずつ渡していったりする等、保育が充実するよう努力していただきたい。</p>
<p>教育課程の編成</p>	<p>市内共通カリキュラムを基本としながら、園の保育方針や目標に基づいて独自の保育を進めている。今後は、地域との交流も視野に入れて計画を立てていく。</p>

<p>安全管理 ・ 防災教育</p>	<p>毎月当番制で全遊具の点検を行い、会議で報告し、修理や改善できる体制をとるとともに、日常の保育活動でも気を付けている。避難訓練は、年間計画に基づき訓練を実施し、改善を図っている。実際の避難には、地域との連携が必要となってくるので、検討していく。</p>
<p>家庭 ・ 地域との連携</p>	<p>4年度も、総会・講演会等が紙面開催となったが、園だよりやドキュメンテーションを活用し、降園時に園での出来事を話し、気軽に保護者が相談できるよう心がけている。新たな行事のあり方を検討しながら、保護者と意見交換ができる場をもてるよう取り組んでいく。</p>
<p>職員の 資質の向上</p>	<p>多くの職員が参加できるオンライン研修により、園全体で保育について話し合い、共通理解を図る機会が増えている。職員一人一人の個性に応じ、助け合いながら保育を進めながら、実技研修の参加や、保育者の得意な部分を更に伸ばしたり不得手な部分を補ったりしながら、個々の質の向上を図っていく。</p>
<p>食育 ・ アレルギー対応</p>	<p>5歳児は、園児が味見当番を行い、調理師から材料や栄養等を聞き、その内容をクラスで発表している。4年度は、栽培した野菜は持ち帰りだったが、コロナの状況に応じながら、収穫した野菜に触れたり、クッキングしたり、栽培した野菜を使った活動の検討をしていく。</p>
<p>関係者評価の 取り組み</p>	<p>市の保護者アンケートを実施しているが、他者からの評価は受けていない。今後、理事会等で検討していく。</p>
<p>【各園の特色や今年度、園として頑張りたいところ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 友だちとのかかわりの中で、園児が色々なことを学び、自分で考えていきながら、生き生きと活動できるようにしたい。 ○ 園児の気づきや意欲、主体性を大切にできるような保育者の支援、土台作りを目指したい。 <p>【委員コメント】</p> <p>保育を改善したいと願うリーダーのもと、子どもたちの主体性を大切にしようとする保育が実現しつつある。園だよりやドキュメンテーションを通じて、保護者や地域と連携をとるように努力されている。園全体で保育について話し合う機会が増えているということで、保育者も園児も生き生きするような保育が行われることが今後期待できる。</p>	

園名（ 日野こども園 ）

	内容
<p>教育 ・ 保育内容</p>	<p>園長のしっかりとしたリーダーシップのもと、保育者が保育や保育環境について「一度やってみる」「一度皆で考えてみる」という風土のもと、職場内での好循環が生み出され、質の向上に取り組んでいる。</p> <p>乳児の保育室では、棚や玩具等の配置や環境構成を試行錯誤しながら、子どもの興味や発達に応じた保育をしていること、保育者同士で検討を繰り返していることがよく分かった。また、一人一人の園児の姿を肯定的に捉え、保育者の穏やかなかわりによって園児が安心して遊んでいる姿が印象的だった。今後は、個々の園児の発達状況を確認し合うことや、5領域の視点から保育内容や保育環境を捉え直して試みることを通して、さらに充実した活動が行われることを期待したい。</p> <p>幼児は、保育室の環境構成を工夫し、学年間やクラス間で遊びや活動の経験について検討がなされていた。一斉や全体で指導することが多い描画活動は、領域「表現」のねらい・内容にあるように、表現する楽しさや心地よさを感じられるようにする必要がある。園内で一度、一年間の描画活動を振り返り、その発達を理解する機会があると、よりよくなるであろう。4・5歳児は、色々な体験や活動を行う際に、今年度テーマの見守ることとともに、試行錯誤が生まれるきっかけや仕掛けを工夫することで、より一層、園児の考える力を引き出す活動となり、自己選択・自己決定が促されると考える。まず保育者が意識し、園全体で取り入れていくことで、今後より豊かな体験や活動になると思われる。</p> <p>園庭での遊びは、年々、工夫され充実してきていることが分かる。乳児から幼児まで幅広く使う園庭だからこそ、安全上から制限すべき場合と、園児の主体的な活動を促すために制限を緩やかにする場合の、両方の視点が必要である。園庭遊びのルールに見える化や年度途中での見直し等の検討を行い、全職員で共通理解を図ることにより、ますます園児の成長に応じた園庭遊びの充実が期待できる。</p>
<p>教育課程の編成</p>	<p>体験活動と、「いきいき元気、ぴかぴか笑顔」を大切に、集団生活の中で自立する基盤を培い、心身ともに健全で感性豊かな子を育むため、西脇市の就学前教育・保育カリキュラムをもとに教育課程を編成している。</p>

<p>安全管理 ・ 防災教育</p>	<p>定期的に、地震や火災・不審者対応・水害等避難訓練を行うとともに、評価・課題を出し合っている。また、スクールバスの事故をうけ通園バスの安全を再確認し、バスマニュアル（安全冊子）をまとめた。安全管理を徹底し、保護者にもよい子ネットを通じて伝えている。</p>
<p>家庭 ・ 地域との連携</p>	<p>登降園では温かく対応し、保護者の悩みに寄り添いながら、相談できるよう心がけている。また、おたよりやよい子ネット・ドキュメンテーション等、園での教育・保育の様子を伝えている。地域とのつながりでは、老人会とのふれあいを再開し、保育活動や食育につなげた。</p>
<p>職員の 資質の向上</p>	<p>研修会で学んだことを共通理解でき、また職員間で行事や日々の保育の振り返りができる機会や場を設け、保育の改善を図っている。今後は、研修を受講・報告をして終わりではなく、短い時間でも研修参加者が講師役になり、学んだことを主体的に伝えることで、更にステップアップしていく。</p>
<p>食育 ・ アレルギー対応</p>	<p>アレルギー疾患児には、主治医からの生活管理指導書をもとに保護者と面談し、誤食の無いよう個別トレーやカラー食器で対応している。離乳食は、1歳半まで個別に対応し、月1回食材調査を行う。保護者と相談しながら、発達に応じた提供ができるようにしている。</p>
<p>関係者評価の 取り組み</p>	<p>日頃から保護者への声かけを大切にするとともに、保護者会で意見や要望を聞きながら、職員とともに保育や教育について検討し、課題解決に努めている。</p>
<p>【各園の特色や今年度、園として頑張りたいところ】 ○子どもにとってよりよい環境作りの工夫と、情報発信 人的環境(あたたかな言葉がけ)、物的環境(保育室や園庭等の環境) ○今年度のテーマは、「見守る」 園児の活動や姿から保育者が思いをくみ取る、捉える力を育みたい。</p> <p>【委員コメント】 保育者のあたたかな言葉がけと、物的環境の充実が意識的に取り組まれ、浸透してきつつある。今年度のテーマ「見守る」を大事にした保育が、訪問の中で実践されていた。今後は、保育者が子どもの思いをくみ取る・捉える力を数年かけて意識的に取り組むことで、さらに職員集団が高まっていくことを期待する。</p>	

園名（ かすがこども園 ）

	内容
<p>教育 ・ 保育内容</p>	<p>助言に対するフットワークの軽い保育者が多く、園児のことを考え、個人も集団でも、すぐに行動できるところが本園の大きな強みである。</p> <p>園児の動線を考えた配置、より安全に遊び込める保育室が、園児の成長に合わせて、適切によりつくり出されている。保育室の使い方が難しいクラスもあるが、よりよい環境を目指し、毎回試行錯誤の後が見られる。</p> <p>0・1歳児は、保育室の使い方の工夫が見られ、棚や区切り等の活用が良くなっていた。後期訪問では、デットゾーンだったスペースが、子ども達が自由に遊べる『ままごと・お家コーナー』になることで、暗い場所がなくなり、安全に遊び込める工夫がなされていた。また、大きなロッカーで仕切りを作っているクラスが、助言をうけて、その場で遊びのスペースを広げる等、園児の遊びを保障するための工夫が、即座になされていた。</p> <p>手作りおもちゃを遊びに活用しにくいクラスには、実際におもちゃを取り出し、子どもと一緒に遊びながら少しのアドバイスをすることで、園児の遊びに広がりが見られた。手作りおもちゃだけではなく既成のおもちゃでも、保育者がそのもののもつ楽しさを引き出せるようにすると、もっと良くなるのではないかと考えられる。</p> <p>4・5歳児クラスは、遊びのイメージを膨らませながら作ることでできるコーナーについて、園児が興味をもって使うには、何をどこに置いたらいいか、また、ワゴンに入る用具や廃材の種類や整理はどうしたらいいか等、助言した。その中で、保育者同士が相談や検討、アイデアを出し合う姿が見られたので、今後に期待する。</p> <p>クラス数が多いので、職員間の横の連携が非常に重要になってくるが、同学年の保育者同士が、園児の情報を共有し、集団にとってよりよい方向に進むような連携ができています。更に、園での遊びが家庭にまで広がっているという取組も聞いたので、保護者も含めたい循環が育まれていると感じた。</p>
<p>教育課程の編成</p>	<p>教育・保育の振り返りを行い、自園の理念や方針、また5領域や10の姿を見据えながら、園児が主体的に活動できる内容となるよう学年会議や研修を実践している。</p>

<p>安全管理 ・ 防災教育</p>	<p>月1回安全点検では必要な改善を行い、園児の安心・安全を守るという職員の安全意識を高めている。火災・地震・防犯等の訓練では、事前に役割分担を決め把握するとともに、避難の様子や職員の動き等を振り返ることで次へと活かしている。</p>
<p>家庭 ・ 地域との連携</p>	<p>園の方針をお便りやメール・ドキュメンテーション(玄関掲示と学年限定SNS)・ライブ配信(乳児)等、適宜発信をしている。2年ぶりの保護者講演会(子育てママのバイオリンコンサート)や、保育参観も2回実施した。今後も感染症対策に応じながら計画していく。</p>
<p>職員の 資質の向上</p>	<p>クラスにかかわる全職員で学年会議を行い、意見交換や情報共有をしている。今年度の園内研修テーマに基づき、30分の参観と1時間のワークを3名チームで実施した。互いの保育を参観し気づきや学びを付箋に記入し、職員室に掲示(他の保育者がさらに記入)することで、保育者の意欲や経験につなげている。</p>
<p>食育 ・ アレルギー対応</p>	<p>未満児や新入园児に対して、保護者に3回以上食べていない食材チェックを依頼し、安全対応をしている。アレルギー疾患児には、主治医の診断をもとに除去食を実施するとともに、食器の色やアレルギーカード等で対策をしている。</p>
<p>関係者評価の 取り組み</p>	<p>保護者アンケートの実施、園の評議委員会、質の向上推進委員会からの報告書を基に、意見や見えてくる課題に向き合い必要に応じ改善をしていく。</p>
<p>【各園の特色や今年度、園として頑張りたいところ】 ○今年度テーマ「身体を使ったあそび」の園内研修の実施。子どもののびのびとした成長を目指す。 ○支援を必要とする子どもたちへのかかわり。 ○ドキュメンテーションの発信。(玄関に全学年掲示、学年限定でSNS)</p> <p>【委員コメント】 園長、主幹・副主幹保育者を中心として、縦・横の連携が密にとれるように工夫がなされている。特に、経験年数も考慮しながら園内研修が計画されており、保育者同士で切磋琢磨しながら保育の質を高め合い、困りごとがあれば主幹・副主幹保育者から助言してもらえらる土壌がある。 普段から職員集団が高めあうための語り合いが行われているため、職員一人一人が自らの保育観を持ち、それを伝え合うことができる力が育ってきている。</p>	

園名（ つまこども園 ）

	内容
<p>教育 ・ 保育内容</p>	<p>全体として、保育の改善を一緒に考えていこうとする雰囲気を感じられる。園全体での話し合いや、担任保育者間での意思疎通がうまくなされてきたと思われる。年度当初に人員の入れ替わりがあったものの、新たなメンバーでまとまって保育を進めている。</p> <p>乳児保育室では、意図性をもって豊かな環境を整えることが目指されている。0・1歳児は、本事業での前期訪問の後、環境の中での園児の動線に着目して改善がなされ、食事・排泄・着替え等、生活習慣が落ち着いてできる空間と、活発に動く遊び空間とが分かりやすい形で配置された。そのため、活動の流れがスムーズになり、園児が落ち着いたように感じられた。2歳児は、保育者の環境構成によって豊かな遊びが展開されていた。今後は、生活の流れを整理し園児が待つ時間を減らすことで、さらに充実した活動が行われるよう期待したい。</p> <p>3歳児は、ままごとコーナーが充実しており、保育者の丁寧なかかわりが見られた。年度後半、園児の活動量が増え、活発に動く姿が目立つようになっていたが、適切なかかわりによって落ち着いて生活が営まれていた。</p> <p>4歳児は、イメージを膨らませて遊ぶ園児が多く、既存のおもちゃを存分に活用していた。前期訪問の助言を受け、後期訪問では、廃材や素材を使って自由に制作をして遊ぶ姿が見られ、イメージを形にするように成長していたのが印象的であった。5歳児は、夕涼み会でのお化け屋敷を、自分たちで企画し、想像力を働かせながら制作する等、主体的に考え、話し合っ何かを作り上げる活動が活発になってきたことが感じられた。今後は、就学までに必要であると考えられる、お互いの良さを見つける時間や気持ちを伝え合う機会の確保等、自分の考えや気持ちを表現し、折り合いをつける力を身につけるための取組を、さらに深めていくようにできることを期待する。</p>
<p>教育課程の編成</p>	<p>毎月、カリキュラム検討委員会を実施し、クラスから全体へ、情報交換や意見交流をしている。園児の姿に応じたカリキュラム作成に向け、引き続き検討会を進めるとともに、ドキュメント研修も進めていく。</p>

<p>安全管理 ・ 防災教育</p>	<p>毎月、担当者が安全点検をし、危険な所や改善箇所等の対処や、安全管理に万全を期している。11月、危機管理マニュアルを見直したが、3月に再検討を行う。今後は、保護者参加型の訓練や地域との連携に努めていく。</p>
<p>家庭 ・ 地域との連携</p>	<p>毎日の職員朝会に加えて連絡会や職員会議等で、情報交換を行うとともに、保護者に園の生活が分かるよう、学級通信や園だより、掲示板等工夫・充実させている。4年度、キンダーワーカーの相談日を設け、安心して子育てができる環境を整えた。今は、職員との面談のみだが、今後は、保護者相談や福祉へとつないでいく。</p>
<p>職員の 資質の向上</p>	<p>参加可能な研修には積極的に参加し、保育の質の向上に努めている。カリキュラム検討会での振り返りに加え、4年度ドキュメンテーションを活用した、研修を行った。課題を明確にすることで保育の改善や専門性の向上に努めている。</p>
<p>食育 ・ アレルギー対応</p>	<p>アレルギー疾患児の保護者とは生活管理指導表を基に面談を行い、一人一人に合った食事提供ができるようにしている。毎月の給食検討会では、栄養士、調理師と意見交換を行い、クラスの食事の様子から、園児のためのよりよい食事体制の提案・協議を行っている。</p>
<p>関係者評価の 取り組み</p>	<p>職員アンケートに加え、年に3回保護者アンケートを実施している。（運動会・生活発表会・市アンケート）出てきた課題については、しっかり検討し、園生活がよりよい場となるよう協議している。</p>
<p>【各園の特色や今年度、園として頑張りたいところ】</p> <p>○「明るい声が響き笑顔あふれる楽しいこども園」「たくましく心情豊かな子ども」の育成。</p> <p>○保育者の園児に対する育ちの読み取りと日々のかかわりの質を高める。全職員で園児の成長を支える雰囲気を作っていく。</p> <p>【委員コメント】</p> <p>カリキュラム検討会やドキュメンテーションの研修等、全職員で保育の質の向上に前向きに取り組んでいる。園児が楽しく過ごせることを目指して、職員同士の意思疎通と共通理解を大切にされている。生活動線の改善や、園児に適した教材や遊びを工夫する等、目に見える形での向上が見られ、今後の発展が期待できる。</p>	

園名（ 芳田こども園 ）

	内容
<p>教育 ・ 保育内容</p>	<p>本園の集団の強みは、園児の発達を考えた適切なおもちゃを手作りするといった、保育者による保育に対する前向きな姿勢が見られることである。</p> <p>0・1歳児は、前期訪問で、『押す・引っ張る』おもちゃの工夫や体を動かすスペース、おもちゃの取り合いについて等について助言したが、後期訪問には、0歳児と1歳児の遊びスペースを可動式にする、長椅子を活用したミニカーの坂道道路を作り、場所の取り合いにならないようにする等、ユニーク・おもしろいしかけのおもちゃが、場所の配置も考えながら設定されていた。2歳児は、『主体性』という視点で、おもちゃを十分に・自由に触る経験には、ある程度保育者の我慢と視覚的配慮が必要だと伝えたところ、後期訪問には改善や工夫が見られた。</p> <p>上記のように、おもちゃや教材の配置・棚の位置等、より園児の発達に応じた使い方になるように工夫が凝らされている。保育者の表情も含めて園児の育ちにより良い環境が整えられている。</p> <p>幼児は、園児が遊びで使うものを自分で楽しんで作ったり、一人一人が役割をもったりしながら活動できるように保育者の声かけや環境構成に工夫がなされていた。特に5歳児は、好きな遊びの中で、科学につながる遊びをしていた。前期訪問日は、泡遊びをしていたが、色々な可能性の広がりを感じられた。後期訪問でも、お店屋さんごっこで、一人一人が役割をもち楽しそうに活動する姿が見られ、保育者がクラス運営をする上で、園児への願いをもちながら保育を進めていることが、しっかりとわかる保育だった。</p> <p>軽微なことだが、園児の目線にあるものや掲示物について、ものを整頓される際には、子どもにとって必要か不必要かを選別する必要がある。また、保育に対する思いはあるが保育技術にまだ差がある保育者、試行錯誤しながら取り組む中でますます良くなる学年もあるので、保育集団として職員間で高めあっていくことを、今後も期待する。</p>
<p>教育課程の編成</p>	<p>西脇市共通カリキュラムを基本に、本園の良さ・特色・園児の発達に応じた独自の教育課程を編成している。年間計画・月週案・日案はいつでも見ることができるようまとめて掲示し、全職員で共有を図っている。</p>

<p>安全管理 ・ 防災教育</p>	<p>月初めに安全点検を行い、危険な場所の確認や改善を、職員全員で把握するようにしている。特に、通園バスではチェックリストを作成し、送迎時の園児確認を徹底している。また、定期的な訓練では、職員間で色々な場面を想定、防災用品の準備、教材を用いて分かりやすく園児に伝える等、共通理解しながら進めていく。</p>
<p>家庭 ・ 地域との連携</p>	<p>日常の行事・季節の遊び等を、ドキュメンテーションでこまめに掲示することで、園の取組について、保護者の理解や質問・意見等が活発に行われている。保護者と日々のやりとりや日常的な会話を大切にし、悩みや困っていることについて、職員間で共通理解を図り、保護者が安心して子育てできるよう、より添いながら保育を進めている。</p>
<p>職員の 資質の向上</p>	<p>研修会で学んだこと、やってみたいアイデア等、職員間の話し合いを大切にしている。今年度は、園児にかかわるどんな立場の職員も意見を出し合うことを目的として、園内研修を3回行った。保育テーマに沿って、様々な職員の意見を聞くことで、幼児理解やより深い学びにつなげ、職員の意欲を高めていけるようにしている。</p>
<p>食育 ・ アレルギー対応</p>	<p>アレルギー疾患児については、生活管理指導表に基づいて保護者と相談の上で個別対応を行っている。5歳児が中心となって栽培した野菜を給食にも取り入れ、食育活動へつなげていった。感染症予防の為にこまめな消毒を行うようにし、特に夏の暑い時期の温度に気をつけるようにした。</p>
<p>関係者評価の 取り組み</p>	<p>市保護者アンケートの結果から、園の現状を理解し、課題改善を考えている。きちんと意見を受けとめ、次につなげる努力をしていく。</p>
<p>【園の特色や今年度、園として頑張りたいところ】 ○ドキュメンテーションを重視した取組 ○保育内容の共通理解、園児へのかかわり方（担任と副担任・補助者等） ○研修機会、職員会議の工夫</p> <p>【委員コメント】 年々保育に対する意識を高くもてる保育者が増えてきている。また、保育の中で大切にしたいことをもちながら、丁寧な保育をされている保育者もおられた。職員同士の信頼関係が築かれているため、保育に関する困りごとがあっても主幹・副主幹保育者を中心に、相談しあえる関係性があることがうかがえる。</p>	

園名（ 黒田庄こども園 ）

	内容
<p>教育 ・ 保育内容</p>	<p>全般的にどの学年・クラスにおいても、保育の基本的な考え方である「環境を通して行う」という意識をもって、発達に応じた環境構成が工夫されている。特に、4年度は2回の公開保育も含め、職員が一丸となって保育の質の向上に向け、意欲的に取組を進めていた。訪問するたびに、前回の学びを踏まえた改善を検討しながら、保育環境や保育内容の工夫を行うことができる非常にパワーのある職員集団だと感じた。既製品のものや手作りのものをバランスよく準備し、園児の興味や関心だけでなく、遊びや活動の広がりに応じた場や空間、動線を考慮されていた。</p> <p>乳児においては、保育者との安心感・信頼感を土台とした、個々の園児の育ちが保障されるような遊びのコーナーづくりへの意識や、園児のやりたい気持ちを引き出す保育者の努力が感じられた。後期訪問での1歳児の転がし遊びや、2歳児のお店屋さんごっこ等、今後更に園児の発達や興味に応じた保育内容を工夫がなされることを期待する。</p> <p>幼児においても、園児の関心に合わせたままごとやごっこ遊びの環境が常設されており、ままごと環境から色々なごっこ遊びに広がるように、継続性と発展性を考えた保育がなされている。その中で、特に、5歳児は「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が育まれていくような保育を目指し、「協同性」「豊かな感性と表現」の育ちを意識した創造性あふれるごっこ遊びが展開されていた。その土台となる3・4歳児は、ままごと遊びやごっこ遊びの保育環境、ブロックやイメージを働かせながら作って遊ぶ活動等が継続的に取り組まれている。</p> <p>園として、園児の主体性を大事にした保育が共通理解できており、そのための環境構成や保育内容についても適切である。今後は、より一層、物の性質や仕組みを感じたり、気づいたり、試したりしながら、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の豊かな感性と表現、思考力の芽生えを育んでいく保育を期待したい。</p>
<p>教育課程の編成</p>	<p>市の共通カリキュラムを柱に、本園の教育課程を編成している。公開保育での助言や、幼児教育センター現場訪問での、月・週・日案の作成・検討等により園児の実態に応じたカリキュラムにむけ、学びが深まっている。</p>

<p>安全管理 ・ 防災教育</p>	<p>避難訓練計画の見直しを進め、年間計画に沿って各月の訓練を実施するとともに、市や消防署、警察署等関係機関との連携を図る。通園バスの安全管理について、職員間で何重ものチェックを行い、安全意識の高揚を図っている。</p>
<p>家庭 ・ 地域との連携</p>	<p>園だより、HPやドキュメンテーション、地域の情報紙「黒田庄つうしん」等、保護者のみならず地域に発信している。今年度、園の様子をネット配信も実施した。園の取組や園児の様子を具体的に保護者や地域に知らせ、就学前教育の大切さを今後もアピールしていく。また、食育や園評価アンケート等、家庭との双方向の連携を図っていく。</p>
<p>職員の 資質の向上</p>	<p>公開保育や現場訪問等、保育者一人一人が園児の発達段階や実態に応じた環境構成や支援を目指し、前向きに取り組んでいる。保育者同士の話し合いによる幼児理解、100の自己チェックリストも含め、PDCAを大切にしながら、職員の資質向上に努めている。</p>
<p>食育・ アレルギー対応</p>	<p>アレルギー疾患児については、医師の指示を重視し、保護者と相談しながら進めている。食育だよりの充実、保護者への食のアンケートや、地域の子育て支援サークルを活用した親子食育教室等を継続していく。</p>
<p>関係者評価の 取り組み</p>	<p>評議員や外部の監事等に評価、保護者アンケート（市・基本的な生活習慣）等を実施し、保護者の声を真摯に受け止めながら、園児の健やかな成長のために園と家庭でできることを検討し、連携を図りながら取り組んでいく。</p>
<p>【園の特色や今年度、園として頑張りたいところ】 ○家庭・地域への情報発信 ・保育参観、HP、よい子ネット、園・学年だより「くろっこ通信」等 ○職員の研修機会を増やすと共に、情報を共有する 学びの共有化(研修時間の確保と工夫)</p> <p>【委員コメント】 積極的に保護者や地域への情報発信は、保育・幼児教育についての理解を広げていくために、とても大事な取組である。今後も継続を願う。 4年度は公開保育があることで、学びの共有化のための時間捻出を工夫され、その成果が多く見られた。継続的な研修時間の確保と工夫は、保育実践力向上や保育の共通理解にとっても大切なことなので、今後も期待している。</p>	

園名（ しばざくら幼稚園 ）

	内容
<p>教育 ・ 保育内容</p>	<p>園長の柔和なリーダーシップのもと、唯一の公立幼稚園としての使命を全うされている。文部科学省の『幼稚園教育要領』に基づく幼児期の教育について、西脇市における実践的なモデルを担う大切な役割を果たし、3歳から5歳までの幼児期の教育について、5領域や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」を意識しながら資質能力を育てる実践がなされていた。</p> <p>3歳児は、前期訪問では専用園庭を活用し、友だちとかわりながら一人一人が十分に試したり感じたりする保育が行われていた。さらに、後期訪問では、乗り物ごっこを中心に、自分が何かになったつもり・イメージを働かせながら園児が楽しんで遊ぶための環境づくりが工夫されていた。このような中で一人一人の園児が自分の思いやイメージをもって遊ぶ力が養われていくと考える。</p> <p>4・5歳児は後期訪問において、前山を使った保育活動として、「ピタゴラスイッチづくり」「サーキット遊び」「遊園地ごっこ」「ジェットコースターづくり」等、豊かな自然を切り口とした10の姿の保育実践が行われていた。保育者が、園児一人一人の主体性を発揮させながら、友だちとアイデアを出し合い発展させていくための、適切な手立てや提案を行うとともに、学年に応じたまとめや振り返りを進めている様子が見えたと感じた。特に、5歳児の「その日の活動の振り返り」は、その日の保育場面の写真を使って、園児自身がドキュメンテーションを作りながら振り返る特色ある手法であり、このような小学校以降でも求められる振り返りを通して、次への見通しをもつことができると考えられる。また、前山での保育活動は、いわゆる「森の幼稚園」の活動として意義があるもので、そこでの実践をまとめることで、市内の他園や小学校にとっても有益なものになると期待できる。</p> <p>今後は蓄積されてきた保育のあり方に関する知見をより分かりやすい形で他園や小学校と共有し、幼児教育のあるべき姿について広く浸透させるようご尽力いただきたい。</p>
<p>教育課程の編成</p>	<p>「5領域」や「10の姿」の視点から子どもの活動の意味づけを図り、体験活動を中心とした教育内容の工夫をしている。また今年度、園小の接続期カリキュラムに焦点をあて、5歳児のアプローチカリキュラムの編成をしている。</p>

<p>安全管理 ・ 防災教育</p>	<p>毎月の安全点検から改善が必要な所を、市教委に報告の上、職員で共有している。様々な災害を想定し、毎月1回避難訓練を実施。火事・洪水・地震・不審者等想定して実施するとともに、ミサイル発射時の避難や、戦争等については、講話のみとし、自分自身を守るよう伝えている。</p>
<p>家庭 ・ 地域との連携</p>	<p>今年度、色々な人との出会いや交流の場、触れ合う機会を意識した取組を進めている。中学校区連携の挨拶運動では、従来の中学生を園に迎えるだけでなく、小中学校へ園児(保護者)が出向いて交流を図った。保護者や小中学校にむけて就学前教育の理解を図るため、公開保育、通信やドキュメンテーション等を活用した情報提供を行っていく。</p>
<p>職員の 資質の向上</p>	<p>降園後、担任や職員で園児の様子を伝え合うことで、保育の振り返りや情報共有等、全学年の把握につながっている。何気ない会話の中で、保育に対する迷いや疑問等を言葉にすることで、保育のヒントが見つかったり、園児の成長に気づいたりすることができ、保育の改善につながっている。</p>
<p>食育 ・ アレルギー対応</p>	<p>一人一人の健康状態・特性を理解し、健康観察を行うとともに、健康な心と身体について、玄関の掲示(毎月変更)や保健指導を行っている。アレルギー疾患児について、主治医の記載による学校生活管理指導表の留意点に基づき、対応を行っている。清潔な環境を保つよう努めるとともに、心の健康も保てるように取り組んでいる。</p>
<p>関係者評価の 取り組み</p>	<p>学期に1回の保護者アンケート、評議員会等の意見、質の向上推進委員の視察訪問から受けたアドバイス等を参考に保育の改善を図っている。</p>
<p>【園の特色や今年度、園として頑張りたいところ】</p> <p>○目の前の園児の健やかな成長の手助けとなるよう、いつも通り、頑張っていきたい。</p> <p>○ワクワクと、幼稚園が楽しいと思えるような保育内容を工夫したい。 一人一人の園児のもつ力を信じ、発揮できる環境づくりを園児と一緒に考えていきたい。</p> <p>【委員コメント】</p> <p>ワクワクと、幼稚園が楽しいと思えるような保育内容の工夫が実現できている。また、園児一人一人の興味や発達の特性に応じて、個を大事にした保育実践がなされていた。保育現場の実践研究を、着実に積み重ね、公立幼稚園としての役割を果たしつつ、努力・工夫を積み重ねてきたことを感じた。</p>	

令和4年度西脇市就学前教育・保育の質の向上推進委員会
特別支援報告書（案）

特別支援教育についての取組内容

相談希望園児の増加に伴い、令和4年度は、特別支援視察を参観中心から面談中心に行うことを提案した。最初に担当保育者からの聞き取りで相談主訴の確認後、園児の行動観察を行うことにより、相談内容の精選が図れ、短時間でも園児の困難さの原因とその対応が保育者に伝わりやすくなると思われた。園によっては、担当保育者との相談時間を確保することが難しい様子も浮かげた。

重度障害園児の支援に、知識や経験のあるスタッフを配置する園もでてきている。園職員間で実践を通じた専門性を広げる機会をもてることを期待している。

《子どもの特性や障害に応じた取組について》

1. 園児の実態把握について

【担任・園として】

- ①担任保育者を中心とした行動観察・記録
- ②保護者の様子聞き取り

※これらの取組のため必要に応じて、環境整備（スペース作り）や対応人員のための協力や体制作りを進める。

【外部関係機関と協力して】

- ①医療や福祉（児童発達支援事業所）での、発達検査・診断・療育につなげる。
- ②市の巡回相談の活用
- ③保育所等訪問支援事業（わかあゆ園等）の活用

2. 連携について

【園内での情報共有や連携】

①職員間での情報共有

- ・定例会議：職員会議、特別支援園内委員会、職朝
- ・臨時会議：ケース会議など
- ・日常的に：掲示板や連絡ノートの活用、クラスや学年などで話しやすい環境作り

※職員の勤務時間の違いにより、全員揃っての直接的な情報共有が困難な現状があり、間接的な情報共有の定着が大切であると思われる。

②保護者との情報共有

- ・懇談会の設定（定期的に全園児対象に設定、必要に応じて個別に設定）
- ・通信やホームページの活用など

※集団生活で困難さが生じる園児が増加傾向にある。園や保育者は、保護者に困難さを理解してもらうために、園生活の様子が伝わる機会を計画的に設定する必要があると思われる。

※保護者の中には、困難さがあっても自ら助けを求めることが苦手な方もいるため、気になることを園と共有できる機会を設けることで、園児の安定につながっていくと考える。

【外部関係機関との連携】

①医療や福祉(児童発達支援事業所)と療育について

保護者の承諾得て、園として直接連携を行う。

※保護者を介して間接的にかかわるだけでなく、保護者と共に対処を学びたいという姿勢が有効である。

※特に重度の障害園児の場合、園での安全な生活と保育活動(特に行事)の参加に関して、関係機関との連携や支援協力が不可欠と思われる。

②西脇市(こども福祉課)や兵庫県(家庭センター)等と、家庭支援の役割分担や協力体制の構築を行う。

③市の巡回相談訪問や保育所等訪問支援事業の活用

④特別支援学校(北はりま)のセンター的機能の活用

※各関係機関との連携に関して、直接的な連携だけでなく、間接的なりメール形式やハイブリット形式での会議や相談が進みつつある。

※関係機関との連携で、職員の事例研修になり、資質向上にも繋げることができる。

3. 連携のツール(サポートファイル)について

①保護者に特性理解のためのサポートファイル作成案内を行う。特に小学校への就学に向けて早期支援での2次障害予防の観点からの理解を勧める。

②支援者として、本人・保護者が活用しやすい内容を意識しながら作成をする。

※内容の検討を複数職員で行うことで、職員研修にも繋がる。

令和4年度西脇市就学前教育・保育の質の向上推進委員会
園小の接続報告書（案）

園小の接続についての取組内容

保育環境の改善や、園児への言葉がけ等、質問・相談事項にあげている保育者が多く、助言されたことについて意欲的に改善を行っている姿が多く見られた。保育環境は、安心した生活を保障する場であり、活動を意味づけたり促したりする空間であり大変重要な要素である。その中でも、子どもたちへの意図的な仕掛けがとても大切で、アフォーダンス理論のような『そうしたくなる』『せざるを得ない』環境にすることで、たくさんの言葉をかけられることなく自然で無理のない様子で生活したり、園児が興味をもって動いたりしている姿も見ることができた。さらに、適切な言葉がけにより、日常生活の安定・活動の活性化・話し合いでの思考の深まり・コミュニケーション能力の向上等が期待される。

視察訪問の中で、多くの園で掲示されていたドキュメンテーションは、保育者の活動に対する意図や、活動中の子どもの姿、学びの流れがよく分かるものとなっていて、各園の保育者の工夫や頑張りがうかがえた。幼児期に育てたい「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿（10の姿）」をドキュメンテーションに意図的に加えられている内容や、話し合い活動等小学校での教育とのつながりが意識できる内容もあった。そのため、このドキュメンテーションを小学校へつないでいくことにより、スタートカリキュラムの見直しに大きな役割を担うことができるのではないかと考えられる。小学校関係者が、もっと園の取組を知り、活用していくことが接続期カリキュラムには必要だが、そのツールの一つになるとともに、特に、園で体験してきたことや学んできたことを小学校で振り返ることにより、学びが深まったり、自信をもって活動に取り組めたりと、その教育効果は大きいと期待できる。

コロナ禍で園小の交流が十分できない状態であったが、徐々に規制が解除され再開できるものが増えてきた。まずは、『互いを知る』こと。保育者や教師が訪問し合い、実際に見て・体験して・理解し合うことで、溝が埋まっていく。4年度は、各園・小で連絡会や研修を行ったり、公開保育・公開授業を行ったりして連携を深めることができたことは大きな成果である。そして、園小の子ども同士交流も徐々に再開されているということは、園児にとって小学校への不安軽減になるばかりではなく、憧れの場として入学への期待が膨らむ交流となるであろう。また、小学1年生にとっても、お兄さんお姉さんとして憧れをもって見てもらえる存在となれるように、相手を意識して活動することで自信につながる機会となっており、園小双方の大きなメリットとなっていると考える。